

災害の現場から。

自衛隊に勤務し、阪神淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災など、災害派遣で被災地の現場を経験した防災安全課 葛西 宣則 防災安全専門員。
災害現場を知るからこそ、これからは生かせる「災害への心得」を教えてくださいました。

まずは、「自分の命をまもる対策」を

どんなに非常持出品を準備しても、命を落としたら使えません。災害時は救護に時間がかかるので、けがをしない・命を守る対策をしましょう。

対策

- ・家具を固定しておく
- ・地震発生時は頭や体を守る体勢をとる

水の容器を準備しよう

非常食や水の準備はもちろん大切ですが、意外と忘れがちなのは水を入れる容器の準備です。実際、給水車が来ても水を入れる容器がないという事例がありました。

おすすめは…

水を入れても重くなりすぎない容器

日ごろから整理整頓を

大きな地震が起こると物が散乱します。必要なものをすぐに持ち出せるように、どこに何があるか把握しておきましょう。

体を動かそう

新潟県中越地震では、車中泊でのエコノミークラス症候群が問題になりました。車内や避難所では、同じ姿勢で長時間過ごしがちになるので、ストレッチをするなど、定期的に体を動かしましょう。



防災安全課 防災安全専門員 葛西 宣則

施錠と貴重品の管理をしよう

災害が発生すると治安が悪くなります。家から避難するときは施錠をしましょう。貴重品は常に手元に置いておきましょう。

季節の変わり目は寒暖差対策を

上着を用意するなど、特に寒さに対する準備はお忘れなく！

あなたの家のブロック塀は大丈夫？

平成30年の大阪府北部地震では、ブロック塀の倒壊により、尊い命が奪われました。老朽化したブロック塀は、災害時に倒壊して通行人に危害を及ぼすだけでなく、

避難・救護活動の妨げになる可能性があります。定期的な点検を行い、傾きやひび割れを見つけた場合は、建築士や施工業者などの専門家に相談しましょう。



特集 地震への備えに、

自信はありますか？

最近、全国各地で大きな地震が多発しています。地震のニュースを見るたびに「備えが必要だ!」と思いつつも、いざ行動に移すのは難しいものです。今年に関東大震災から100年という節目の年。「地震」のことを考え、行動に移す特別な年にしていきましょう。

防災安全課 ☎84-0326

関東大震災から100年

開成町の被害

開成町では、9名の方が亡くなり、家屋では全壊61棟、半壊162棟の被害がありました。全・半壊の家屋数は、当時の総家屋数の約4割にものぼります。また、当時の開成小学校では、児童は無事でしたが、校舎の窓ガラスが割れるなどの被害がありました。

金井島にある「古民家ガーデ



「大地震かぞえぶし」

ン紋蔵」には、震災発生当時の震源地域の被害状況や人々の様子が記録されている「大地震かぞえぶし」が残されています。地震のなかを命がけで人々が逃げ惑う様子や、地面が割れて泥水が噴き出した様子などが記され、当時のことを後世に伝える重要な史料です。

関東大震災を忘れない

「大地震かぞえぶし」が展示されています
特別展 関東大震災 一原点は100年前ー

令和5年9月18日(月・祝)まで開催
神奈川県立歴史博物館
(神奈川県横浜市中区南仲通 5-60)
☎045-201-0926



詳しくはこちらから ▶

町文化財保護委員 井上 東亜 さんによる歴史講演会
「開成町と関東大震災」

令和5年8月24日(木) 13時30分~15時
町民センター2階 中会議室A
※参加をご希望の方は、8月10日(木)までに生涯学習課
(☎84-0325)にご連絡ください。